

式辞

鳥羽商船高等専門学校本科ならびに専攻科の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、今日まで入学生皆さんの成長を温かく見守り、励ましてこられた保護者の皆様にも、本校教職員を代表して、心よりお祝い申し上げます。

本日、ここ本科には商船学科41名、情報機械システム工学科 総合工学科コース60名、および高度情報工学コース40名の合計141名の新入生を迎えます。

また、情報機械システム工学科三年次編入生の留学生3名、さらに専攻科生産システム工学専攻に9名の進学者を迎え、令和7年度の入学式を挙行できますことは、私ども鳥羽商船高等専門学校教職員ならびに在校生一同にとりまして、大きな喜びです。

皆さんが入学された鳥羽商船高等専門学校は、長い歴史のある学校で、明治時代の6大教育家のひとりである校祖近藤真琴翁が明治8年（1875年）9月に芝新錢座（しんせんざ）二番地（現、東京都港区浜松町）に航海測量習練所（後の商船鑿）として創基し、その分校として明治14年（1881年）8月20日に鳥羽商船鑿として創立されました。その後、変遷を経て昭和42年（1967年）6月に現在の国立鳥羽商船高等専門学校となりました。

今年は、9月に創基150周年を迎える記念すべき年となります。

また今年度は四代目の練習船鳥羽丸が新造され、4月から実習のための運航が予定されています。そして、情報機械システム工学科では高度情報工学コースが新設され、その1期生が入学されました。これからの教育・研究に関して、より一層の充実と発展を目指していきます。

入学された皆さんには、将来の我が国の未来を担う人材として、皆さんが想像する以上に、日本の社会と産業界から、大きな期待がかけられています。本科で5年、あるいは5年半、専攻科に進む人はさらに2年間学問等を磨き、実践的な工学の知識と技術を身につけて、創造力と協調性、およびリーダーシップを備えた逞しい人間に育ってほしいと願っています。

本校では全ての学生が心すべき三つの教育目標を掲げ、人間力にあふれた、創造性豊かで国際的に通用する、高度な実践的技術者の育成を行っています。

すなわち、

- 一つ、人間性豊かな教養人となること。
- 二つ、創造性豊かな技術者となること。
- 三つ、国際性豊かな社会人となることです。

さて、私はこの場で新入生の皆さんに二つのお願いをしたいと思います。

一つ目は、「他人の個性を認め、尊重すること」。私たち人間は、同じ作業でもさっさと素早くやるひと、時間のかかるひとがあります。また、相性というものもあります。時には素早くやつのけることが大事なときもあり、また、時間をかけて丁寧な作業が必要なきもあるのです。それぞれの得手不得手をお互いに認め、尊重し互いに得手不得手を理解し助け合うように努力してください。楽しい気持ち、良いクラスを作ること、世界平和を構築することも、この「他人の個性を認め、尊重する。」という同じ考え方が基本です。そして、「他人を思いやり、優しい人になってください」。

二つ目は、「志を立てて進むこと」。

「志を立てる」ということは、目標を設定して、在学期間中、おそらくいろいろなことが起こるでしょうが、諦めないでその「志」に向かって進んで行ってください。ここでの「志」とは、皆さんが人生で迷った時、進むべき道を照らす松明（たいまつ）の役目を果たします。学年が進むとともに「志」に一步でも近づいていることを望んでいます。

次に学生寮に入る皆さんにお願いをします。

皆さんにとって寮生活はおそらく初めての人がほとんどだと思います。寮はクラスやクラブ活動とは異なった共同生活の場です。皆さんが楽しくかつ実りある寮生活を送るために一番大切なことは、一番目で御願いをした「他人の個性を認め、尊重すること」です。寮生活の経験が、一生の宝物になるか否かは「他人の個性を認め、尊重する。」の一点にかかっています。ここでの経験を通して終生の友人を見つけることができましたら、私たちにとっては望外の喜びです。

最後になりましたが、本校では、学則に則り、用意した教育カリキュラムに従って学生の皆さんの教育に当たってまいります。保護者の皆様におかれまし

ては、本校の教育にご理解をいただき、お力添え、ご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

令和7年4月4日

鳥羽商船高等専門学校長 古山 雄一